奈良工業高等曹	門学校	開講年度	平成29年度 (2	2017年度)	授業科目	国語 I			
科目基礎情報									
科目番号	0001			科目区分	一般 / 必	一般 / 必修			
授業形態	講義			単位の種別と単位数	数 履修単位	履修単位: 3			
開設学科	機械工学科			対象学年	1	1			
開設期	通年			週時間数	3				
教科書/教材	図科書/教材 「国語総合 改訂版」(第一学習社)/「新国語便覧(新版三訂)」(第一学習社)、「常用漢字ダブルクリア」(尚文 出版)、『古典にいざなう新古典文法』(本編・準拠問題集 ともに大修館書店)、その他プリント(教員作成)								
担当教員	武田 充啓,鍵	本 有理							
1									

到達目標

- 1.高等学校1年生相当の漢字力や語彙力を身につけている。
 2.小説について、登場人物の心情の変化を読み取ることができる。また、自身の経験にひきつけて感想を述べることができる。
 3.評論文について、筆者の意見を的確に把握し、正確に要約することができる。また、筆者の意見に対して、自身の意見を、根拠をもって表現することができる。
 4.日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ち、その価値に気づくことができる。
 5.文語のきまり、漢文訓読のきまりを身につけている。

ルーブリック

10 2 2 2 2			
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	話し手の指示や意見を的確に聞き取り、正確にまとめることができる。 間き手を意識しながら、自身の意見や与えられた文章を、適切な声の大きさ、明瞭な発音で、述べたり読んだりすることができる。	話し手の指示や意見を的確に聞き 取ることができる。 聞き手を意識しながら、自身の意 見や与えられた文章を、述べたり 音読したりすることができる。	話し手の指示や意見を聞くことができない。 聞き手を意識せずに、自身の意見や与えられた文章を、声の大きさや発音に気を留めずに述べたり音読したりする。もしくは活動時に発言しない。
評価項目2	書物や文献に対して、批判的に読解し、自身の意見を抱き、正確に表現することができる。	書物や文献に対して、自身の意見 を抱き、表現しようと工夫するこ とができる。	書物や文献に対して、自身の意見を表現することができない、もしくは文章表現として著しい誤りがある。
評価項目3	初見の文章について、内容を理解 しながらスムーズに音読すること ができる。	初見の文章について、句としての まとまりを意識しながら音読する ことができる。	初見の文章について、単語ごとに 細切れに音読する。
評価項目4	言葉に関心を持ち、疑問に感じた言葉を即座に調べ、習得することができる。 高校卒業程度の語彙力(漢検準2級〜2級程度)を有しており、適切に運用することができる。	言葉に関心を持ち、疑問に感じた 言葉を自主的に調べることができ る。 高校在学程度の語彙力(漢検準2級 程度)を有しており、適切に運用 することができる。	言葉に関心がなく、初見の語であっても自主的に調べることがない。 中学校卒業程度の語彙力(漢検3級 程度)を有しており、高校在学程 度の語彙を誤って運用することがある。
評価項目5	日本の伝統的な言語文化について 興味・関心を持ち、その価値に気 づくことができる。	日本の伝統的な言語文化について 、興味・関心を持つことができる 。	日本の伝統的な言語文化について 興味・関心を持ったり、その価値 に気づくことができない。
評価項目6	文語のきまり、漢文訓読のきまり を身につけている。	文語のきまり、漢文訓読のきまり について、調べることができる。	文語のきまり、漢文訓読のきまり について、全く理解できない。

学科の到達目標項目との関係

準学士課程(本科1~5年)学習教育目標 (3)

教育方法等

概要	他者との相互理解や相互伝達を円滑なものにするために、理解力や表現力とそれらを支える思考力や感性を培う。また 、言語文化への理解を深め、多様な価値観を知ることを通して、豊かな人間性を育む。
授業の進め方・方法	高等学校第1学年に相当する国語の力を身につけるため、高等学校用の教科書を使用し、様々な 文章を読み、多様な考えに触れる。自分が感じたり、考えたりしたことを口頭や文章によって表現 する機会、クラスメイトの意見や考えに触れ、検討や議論を通して自分の考えを深める機会をもつ。 週3時間のうち、2時間を現代文、1時間を古典(古文・漢文)の時間に当てる。
注意点	関連科目 国語の運用能力は、人文や社会科学系の科目ばかりでなく、自然科学系の科目の基礎にもなる。 学習指針 授業中は発問を多くするので、積極的な発言や質問ができるよう準備しておくこと。 また、作文や創作の時間を有効に使えるように、日頃から問題意識を持って自分や自分の身の回りの世界に目を向けて おくこと。2週間に1回、漢字テストをする。 自己学習 授業前に教科書の下読み、知らない言葉の下調べは必ず行うこと。プリント課題にも必ず取り組んでおくこと。 古典については毎時間、予習をすること、教科書の本文を写し、大事な注なども写しておく、そして、意味や訳のわか

| 古典にプいては母時间、ア首をすること。教科書の本文を与し、人事に | らなかったところを授業で補い、ノートに記入するようにするとよい。

学修単位の履修上の注意

授業計画

汉未可巴	4					
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
		1週	現代文 ガイダンス 評論1-① 古典 ガイダンス	現代文 山崎正和「水の東西」を読む。内容を叙述に即して的確に読み取る。 古典 ノートの取り方を工夫することができる。古典の表記について理解できる。		
前期	1stQ	2週	現代文 評論1-② 古典 説話①	現代文 同上。生活の中にある日本文化に関心を持ち、考える習慣を身につける。 古典 「児のそら寝」を読む。歴史的仮名遣いで書かれた文章を読むことができる。		
		3週	現代文 評論1-③ 古典 説話②	現代文 同上。具体例から抽象的見解へと進む論述の特徴をつかみ、要旨をまとめる。 古典 「絵仏師良秀」を読む。文学史の知識を身につける。		

(
1982 現代文 小説 2 2 2 2 2 2 2 2 2			4週		古典 「竹取物語」を読む。古典と外国文化との関連
日本			5週		古典 同上。基本的な古典単語についての知識と古典
10回 対域を超・解散 対域を固・対策の 対域を関・			6週	現代文 小説1-③ 古典 物語③	現代文 同上。芥川龍之介や日本の近代文学について の基礎的な知識を得る。 古典 同上。古典作品の内容を読み取ることができる
古典 文法① 古典 文法① 古典 文法① 古典 正和文法の知識を持てつける (品詞)。 現代文 開泊2-① 現代文 開泊2-① 現代文 開泊2-② 日典 文法② 日典 文法② 日典 文法② 日典 文法② 日典 文法》 日典 文本》 日本 文本》 日			7週	前期中間試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答する ことができる。
9月 現代文 評論2-① 一切 一切 一切 一切 一切 一切 一切 一			8週		
10週 現代文 評論2-② 四次 評論2-② 四次 評論2-② 四次 計画2 元素			9週		現代文 池内了「『文化』としての科学」を読む。科学の社会的役割について関心を持つ。 古典 古典文法の知識を身につける(動詞の活用など)。
11週 現代文 解論2-(3) 古典 文法(6) 現代文 同上、論理的な文章の構成を理解し、要旨 古典 文法(6) 12週 現代文 (財政・財政・(3) 現代文 (対政・財政・(3) 現代文 (対政・リス・リス・リス・リス・リス・リス・リス・リス・リス・リス・リス・リス・リス・			10週	現代文 評論2-② 古典 文法③	古典 古典文法の知識を身につける(形容詞・形容動
1.0回 古典 文法⑤ 理解交深め、面白さを味わう。 現代文 別代文 別述 別述 別述 別述 別述 別述 別述 別			11週		現代文 同上。論理的な文章の構成を理解し、要旨を まとめる。 古典 古典文法の知識を身につける(助動詞の活用な
13週 現代文 小説2-②		2ndQ	12週		現代文 夏目漱石「夢十夜」を精読する。小説作品の 理解を深め、面白さを味わう。
14週 現代文小院2-3			13週		古典 古典文法の知識を身につける(助動詞、注意す
15週 利利本記録 ことができる。 記談返却・解説 試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。 1週 試験返却・解説 現代文 評論3-① 現代文 評論3-② 現代文 評論2の文意を適切に把握する。 古典 随筆① 現代文 同上。論の展開に注意して読み、文学史 知識を身につける。 現代文 同上。論の展開に注意して読み、筆者のも の見方・考え方を知る。 の見方・考え方を知る の見方・考えたを知る の見方・考える図慣を身につける。 古典 随筆② 古典 随筆③ 現代文 同上。生活の中にある日本文化に関心を持 考える習慣を身につける。 古典 随筆③ 古典 随筆③ 現代文 門上を持む。状況を理解することできる。 現代文 中上春樹「鎬」を読む。場面心情の変化を 現代文 小上春樹「鎬」を読む。場面心情の変化を 現代文 小上春樹「鎬」を読む。場面心情の変化を 現代文 小上春樹「玄」を読む。 場面心情の変化を 現代文 一方典 随筆④ 現代文 一方典 同二百三十六段を読む。 この話のおもしろさ 説明することができる。 現代文 同上の作品の主題を読み取り、人間の生き についての考えを深める。 古典 漢詩② 古典 漢詩② 古典 漢詩② 古典 漢詩② 古典 漢詩② 古典 [江南春]「春晩」を読み、漢詩の知識を身つける。 現代文 同上の構造や作者の工夫を正確に読 取り、小説の面白さを理解する。 古典 漢詩② 古典 漢詩② 古典 正述の自己を理解する。 古典 江瀬段間題に対して正しく解答す とができる。 古典 江蘇段間題に対して正しく解答する。 古典 江蘇段間題に対して正しく解答するとができる。 現代文 目上の指述の構造・対して正しく解答するとができる。 現代文 目上の記述の理述を身について聞いを持つ。 古典 歌物語① 現代文 上田紀行「グローバリズムの『遠近感』 読む、世界情勢について聞いを持つ。 古典 歌物語① 現代文 上田紀行「グローバリズムの『遠近感』 読む、世界情勢について聞いを持つ。 古典 歌物語① 現代文 上田紀行「グローバリズムの『遠近感』 読む、世界情勢について聞いを持つ。 古典 歌物語① 現代文 正は、時代を反映した評論を読み解き。 現代文 同と、時代を反映した評論を読み解き。 日本に対しればいまればいまればいませばいませばいまればいませばいませばいませばいませばいませばいませばいませばいませばいませばいませ			14週		古典 漢文の格言を読む。再読文字などのある漢文を
16週 試験返却・解説 試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。			15週	前期末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答する ことができる。
1週 現代文 評論3-① 古典 随筆①			16週	試験返却・解説	
2週 現代文 評論3-② 古典 随筆② 古典 随筆② 古典 引き続き九十二段を読む。作者の主張につい 説明することができる。 現代文 評論3-③ 現代文 評論3-③ 古典 随筆③ 現代文 門上、生活の中にある日本文化に関心を持え スラス 習慣を身につける。 現代文 小説3-④ 古典 随筆④ 現代文 小比春樹「鏡」を読む。場面心情の変化を 現に即して味わう。 古典 随筆④ 現代文 「古典 同二百三十六段を読む。 この話のおもしろさ 説明することができる。 現代文 小説3-② 現代文 同上。作品の主題を読み取り、人間の生き (についての考えを深める。 古典 「江南春」「春暁」を読み、漢詩の知識を身つける。 現代文 「司上。作品の構造や作者の工夫を正確に読 取り、小説の面白さを理解する。 古典 漢詩② 現代文 同上。作品の構造や作者の工夫を正確に読 取り、小説の面白さを理解する。 古典 「静徳思」「江雪」を読み、詩に込められた いを読みとることができる。 接期中間試験 投業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答す ことができる。 現代文 評論4-④			1週	現代文 評論3-① 古典 随筆①	古典 「徒然草」の序段・九十二段を読み、文学史の
現代文 同上。生活の中にある日本文化に関心を持 、考える習慣を身につける。 古典 随筆③ 現代文 評論3-③ 古典 随筆④ 現代文 村上春樹「鏡」を読む。場面心情の変化を 現に即して味わう。 古典 随一百三十六段を読む。この話のおもしろさ 説明することができる。 現代文 同上。作品の主題を読み取り、人間の生き についての考えを深める。 古典 漢詩① 現代文 同上。作品の構造や作者の工夫を正確に読 取り、小説の面白さを理解する。 現代文 同上。作品の構造や作者の工夫を正確に読 取り、小説の面白さを理解する。 古典 漢詩の知識を身 つける。 現代文 同上。作品の構造や作者の工夫を正確に読 取り、小説の面白さを理解する。 古典 「静板思」「江雪」を読み、詩に込められた いを読みとることができる。 後期中間試験 授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答す ごとができる。 別代文 評論4-① 現代文 上田紀行「グローバリズムの『遠近感』」 古典 第物語」 現代文 上田紀行「グローバリズムの『遠近感』」 古典 「伊勢物語」の文学史的な知識を身につける 現代文 同上。時代を反映した評論を読み解き、多	後期		2週	現代文 評論3-② 古典 随筆②	古典 引き続き九十二段を読む。作者の主張について
3rdQ 4週 現代文 小説3-① 古典 随筆④ 現代文 小説3-② 現代文 「日典 随筆④ 現代文 「日上。作品の主題を読み取り、人間の生き 「こついての考えを深める。 「古典 漢詩① 現代文 「日上。作品の主題を読み取り、人間の生き 「こついての考えを深める。 「古典 「江南春」「春暁」を読み、漢詩の知識を身つける。 現代文 「引起、漢詩② 現代文 「日上。作品の構造や作者の工夫を正確に読取り、小説の面白さを理解する。 「古典 漢詩② 万世の 「計画のできる。 「古典 「静夜思」「江雪」を読み、詩に込められた いを読みとることができる。 万週 後期中間試験 授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答す ことができる。 現代文 「評論4-① 現代文 「財代文 「上田紀行「グローバリズムの『遠近感』」			3週	現代文 評論3-③ 古典 随筆③	古典 同二百三十六段を読む。状況を理解することが
5週 現代文 小説3-② 古典 漢詩① についての考えを深める。 古典 「江南春」「春暁」を読み、漢詩の知識を身つける。 現代文 小説3-③ 現代文 小説3-③ 現代文 小説3-⑤ 古典 漢詩② 現代文 同上。作品の構造や作者の工夫を正確に読取り、小説の面白さを理解する。 古典 「静夜思」「江雪」を読み、詩に込められたいを読みとることができる。 授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答すことができる。 接助返却・解説 試験退却・解説 試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。 現代文 評論4-① 現代文 評論4-① 現代文 同世紀行「グローバリズムの『遠近感』」 読む。世界情勢について関心を持つ。 古典 『伊勢物語』の文学史的な知識を身につける 現代文 同上。時代を反映した評論を読み解き、多		3rdQ	4週	現代文 小説3-① 古典 随筆④	古典 同二百三十六段を読む。この話のおもしろさを
現代文 小説3-③ 古典 漢詩② 取り、小説の面白さを理解する。 古典 「静夜思」「江雪」を読み、詩に込められたいを読みとることができる。 授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答すことができる。 接業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答すことができる。 現代文 評論4-①			5週	現代文 小説3-② 古典 漢詩①	古典 「江南春」「春暁」を読み、漢詩の知識を身に
2 1 1 2 2 2 2 2 2 2			6週		古典 「静夜思」「江雪」を読み、詩に込められた思
8週 試験返却・解説 試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。			7週	後期中間試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答する
9週 パパメ 計論学で 読む。世界情勢について関心を持つ。 古典 歌物語① 古典 「伊勢物語」の文学史的な知識を身につける 現代文 同上。時代を反映した評論を読み解き、多			8週	試験返却・解説	
現代文 同上。時代を反映した評論を読み解き、多			9週		
10週 現代文 評論4-② 的な視点を得て、思索力を養う。			10週	現代文 評論4-② 古典 歌物語②	現代文 同上。時代を反映した評論を読み解き、多角 的な視点を得て、思索力を養う。 古典 「芥川」の章段を読む。助動詞の知識を実際に
4thQ 現代文 同上。経済の世界的一元化と人間の生き方の関係について理解を深める。		4thQ	11週	現代文 評論4-③ 古典 歌物語③	現代文 同上。経済の世界的一元化と人間の生き方と の関係について理解を深める。 古典 「芥川」の章段を読む。内容を読みとり、正確
1,2) 現代文 小説4-① 埋や考えの移り行きを読み取る。			12週		古典 「東下り」の章段を読む。文法の知識を活用す

		て 小説4- 歌物語(短編小	同上。緻密な構成や 説の特色や面白さを味 同上。和歌の技巧につ	わう。				
				代文 小説4-③ 典 歌物語⑥			現代文 同上。志賀直哉や日本の近代文学についての 基礎的な知識を得る。 古典 同上。当時の旅や生活について理解し、文法を ふまえて訳すことができる。					
		15	15週		学年末試験					容を理解し、試験問題 できる。	に対して正し	く解答する
			支却・			試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。						
モデルコ	アカリ	キュ	ラムの		内容と	到達	目標					
分類			分野		学習内容	3	学習内容の到達目標	5			到達レベル	授業週
							論理的な文章を読みを客観的に理解し、 理的な文章の代表的	要約し、意見を	表すこと	型握にもとづいて論旨 ≤ができる。また、論	1	
										情の描写ならびに描写 効果について説明でき	2	
							文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。		1			
							文学作品について、 学作品について、E について意見を述べ	本文学史におけ	る位置を	る。また、代表的な文 を理解し、作品の意義	2	
						鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章 (詩歌、小など) の創作をとおして、感受性を培うことができる。				1		
							読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見 方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。			1		
							ざ、慣用句、同音同	訓異義語、単位 理解を深め、そ	呼称、タ の特徴を	熟語の構成、ことわ 対義語と類義語等の基 と把握できる。また、	1	
		41.0					代表的な古文・漢文物・情景などを理解 めたり広げたりする	む、人間・社会	表現方法・自然な	tの特徴をふまえて人 などについて考えを深	1	
基礎的能力 人文・社会 国語 科学		国語		- 1	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、 持有のリズムや韻などを味わうことができる。		1					
								作品の意義につ	いて意見	らよび中国文学史にお 見を述べることができ ごきる。	1	
							教材として取り上げ の言葉とのつながり 的知識を習得できる)や、時代背景な	、用いら どに関す	られている言葉の現代 「る古文・漢文の基礎	1	
							によるものを含む表 の意見や考えを効果	現方法を工夫し 的に伝えること 、図表等を適切	て、科学 ができる	解し、論理構成や口頭 対抗等に関する自ら る。また、信頼性を重 加工してコミュニケ	2	
							ともに建設的に助言	し、多角的な理	解力、柔	客観的に評価すると に軟な発想・思考力の に資することができる	1	
							かつ論理的に自らの)考えを構築し、 ,をとることがで	合意形成 きる。ま	で尊重しつつ、建設的 なにむけて口頭による また、自らのコミュニ きる。	1	
					社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケ 2 ーションとして実践できる。			2				
評価割合												
試験			課題	題 小テスト 発表			合計					
総合評価割合	<u></u>		55			15		10	10		100	
7-7			46			10 7		-		7 70		
古典能力		1	19			5 3		3 30				